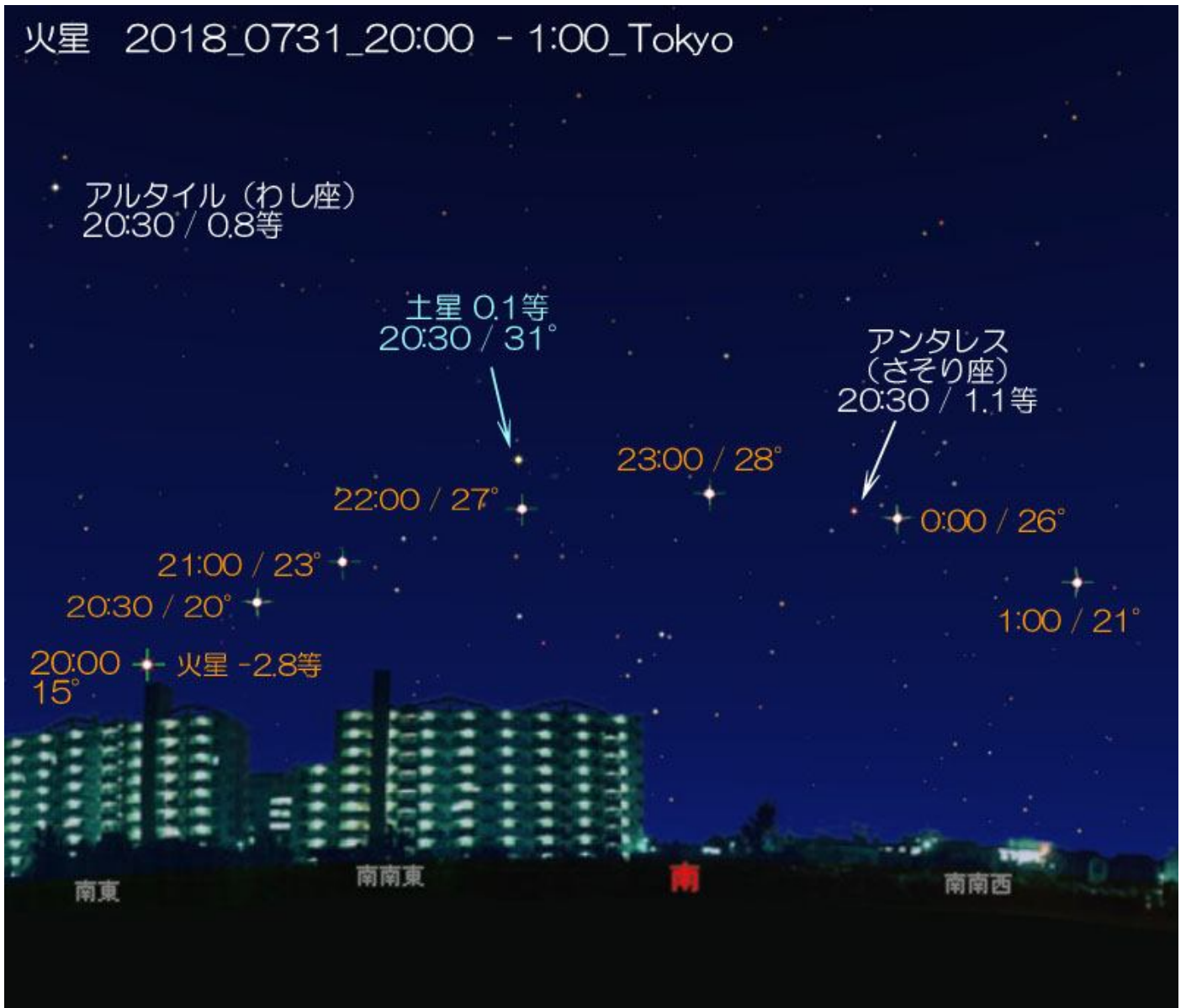


「7月31日の火星の見え方」

お茶の水女子大学附属小学校教諭 / お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

火星と地球が接近している。今日が一番接近するという。火星は地球よりも外側の軌道を回る「外惑星」なので、地球との距離が大きく変化する。太陽から見て同じ向きに地球と太陽があると、互いの距離が近づき、太陽光もほぼ100%受けるので、非常に明るく見える。今夜の火星は-2.8等である。



上図は、東京での見え方を、1時間ごとに計算したものである。街明かりや月明も計算に入れてあるが、実際はこんなにたくさん星は見えないだろう。しかし火星は、新宿駅前でも確実に見えるので、是非観望したい。

惑星の動きはゆっくりなので、今夜の大接近が終わると、急に暗くなるといったものではない。一ヶ月後の9月1日でも、等級は-2.1等を保っている。夏休みに空の暗い場所に行けば、2ページ目の図のように、天の川の左側に赤く輝く火星を見られるだろう。天の川の中に浮かぶ「土星」も見逃さない。更に右(西側)には、木星も見られる。8月下旬の林間学校では、5年生の子どもたちと、天の川、夏の大三角、みなみのかんむり座、いるか座などの恒星とともに、惑星の観察もできるので、とても楽しみだ。

2018\_0731\_2100\_Kita-Karuizawa

アルタイル  
(わし座)  
0.8等

土星  
高度31°  
0.1等

アンタレス  
(さそり座)  
1.1等

火星  
高度18°  
-2.8等

浅間山

SE

SSE

S

SSE